



Q 有名なウガンジョの近くに住宅を建てましたが、会社の友達から呪われた土地に建てたと引越しを勧められています。新築なのに気分がめいっています。

（うるま市・Oさん・女性・50代）

A ウガンジョとはウガンジュともいい、漢字では「御拝所」「御願所」と書

きます。古くは大小の規模の違いこそあれ、公的な御拝所である御嶽（ウタキ）のみをウガンジュと呼んでいたという文献を目にしたこともあります。

御拝所を

「清らかなる場所」とする説

地域によって異なりますが、沖縄の御拝所はおおむね森羅万象の自然やそこに宿る八百万（やおよろず）の神々などに対して、地域・門中・家庭、時には個人の繁栄や安全などを祈願するため、井泉（いせん・カー）、由緒ある井戸のこと（・自然石（じねんせき）・自然樹（じねんじゆ）・洞窟・滝などの周辺を整地して礼拝する環境を整えたことに始まるといいます。

このような考え方からすると、人々の心や体を癒やし清めてくださるのが御拝所です

から、そこを清らかな場所として畏敬することは然りだと思えます。御拝所の冠にウ（御）という敬語が表記されることからその様子がうかがい知れます。

御拝所を

「不浄なる場所」とする説

一方、ごく少数ではありませんが、御拝所を不浄なる場所とする考え方もあります。これは、人々の心や体を癒やし清めるということは、その御拝所には人々の心や体の悩み・悲しみが残るといふ解釈からなのだそうです。

このような考え方を「清濁混合論（せいだくこんごうろん）」といいます。清らかさは、濁りや汚（け）れと比較することにより、初めてその清らかさが明確になるといふ考え方は、本来、清らかさと汚れは表裏一体。汚れが深いほど、それをきよめる清らかさも深いという逆転の発想として、清らかさを畏敬する考え方は、

お札（おふだ）

符札（フーフダ）の安置

読者の皆様の中には、自宅の内外にお札を貼っているという方も少なくないと思います。沖縄では、特に符札（フーフダ）という木札製のお札を

目にするのが多く、由緒ある寺社仏閣が発行するものとして、邪悪なものや災いが住宅へ侵入するのを防ぐため、ウジョー（御門）や住宅のある土地の四隅（ユスミ・四つ角）などに安置したりします。一例として、昔の大工の棟梁さんが天井の上に掲げていた『紫微鑿駕（シビランカ）』も一種の符札であると考えられています。

ガーデンングと公園

昔、恩師から『ガーデンングと公園』の比喩のお話をうかがったことがあります。人にはそれぞれの考え方があり、美しい樹木・庭園の風景を楽しむとき、ある人は自宅のガーデンングにいそしみ、ある人は屋外の公園へ出向く。先述の符札は、ある意味、由緒ある寺社・御拝所などの神仏を符札として自宅へお招きし、御加護（ごかご）を願うとも言え換えられますので、この場合、自宅でのガーデンング的な発想かもしれません。

一方、今回のOさんへの回答になりますが、御加護の原点である寺社や御拝所などは、屋外にありますので、そちらに直接赴き、御加護を願うことは屋外の公園へ出向くといふ発想と言え換えることもできるかもしれません。

Oさんの場合、有名なウガンジョの近くに住宅を建てられたことは、『ガーデンングと公園』に例えてみれば、公園の景色が楽しめ、さらに自宅のガーデンングも楽しめる好条件ではないかと思えます。ですから、もちろん引越しをする必要はありません。

私たちの世界の古い格言に、『お寺の近くには菩薩様（ぼさつさま）が住む』という言葉があります。きつと御拝所の近くに住まれる方々に対しても、同じようなありがたい考え方が沖縄にもあると思えます。今回、会社のお友達のアドバイスをきつかけとして、ご自身の素晴らしい住宅環境を再考できたことは大変ありがたいことであり、そのお友達に対しても感謝のお気持ちを持っていただければと思えます。

